



第4回 横浜市の中学校昼食に関する懇談会 次第

令和元年12月27日(金) 10:00~11:30

関内駅前第一ビル 302 会議室

- 1 あいさつ
- 2 第3回懇談会の議事概要について
- 3 横浜市中学校昼食に関するアンケートについて
- 4 令和3年度以降のハマ弁の方向性について(案)
- 5 その他

配布資料

- 1-1 委員名簿・座席表
- 2-1 第3回 横浜市の中学校昼食に関する懇談会 議事概要
- 3-1 中学校昼食に関するアンケート自由意見欄の分析について
- 4-1 令和3年度以降のハマ弁の方向性について(案)(説明資料)
- 4-2 ハマ弁を学校給食法上の給食と位置付ける場合の課題

横浜市の中学校昼食に関する懇談会

《委員構成》

	所属・職名	氏名
外部有識者	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科教授	鈴木 志保子
	国土舘大学文学部教育学科教授	鈴木 裕子
	神奈川大学経営学部国際経営学科特任准教授	山岡 義卓
	横浜市立大学国際商学部国際マネジメント研究科准教授	柴田 典子
	横浜ガストロノミ協議会常任・相談役（霧笛楼総料理長）	今平 茂
保護者の声	横浜市PTA連絡協議会 会長（泉区泉が丘中学校）	秋好 直樹
	中区横浜吉田中学校PTA会長	小島 みどり
	港北区城郷中学校PTA副会長	越井 美香
学校現場の声	中学校長会役員会（旭区上白根中学校長）	室伏 健治
	中学校長会健康教育部（金沢区富岡東中学校長）	村井 法泰
	小学校長会健康教育研究部（都筑区勝田小学校長）	相坂 俊
	中学校教育研究会技術・家庭部会（旭区希望が丘中学校長）	萬谷 恵三子

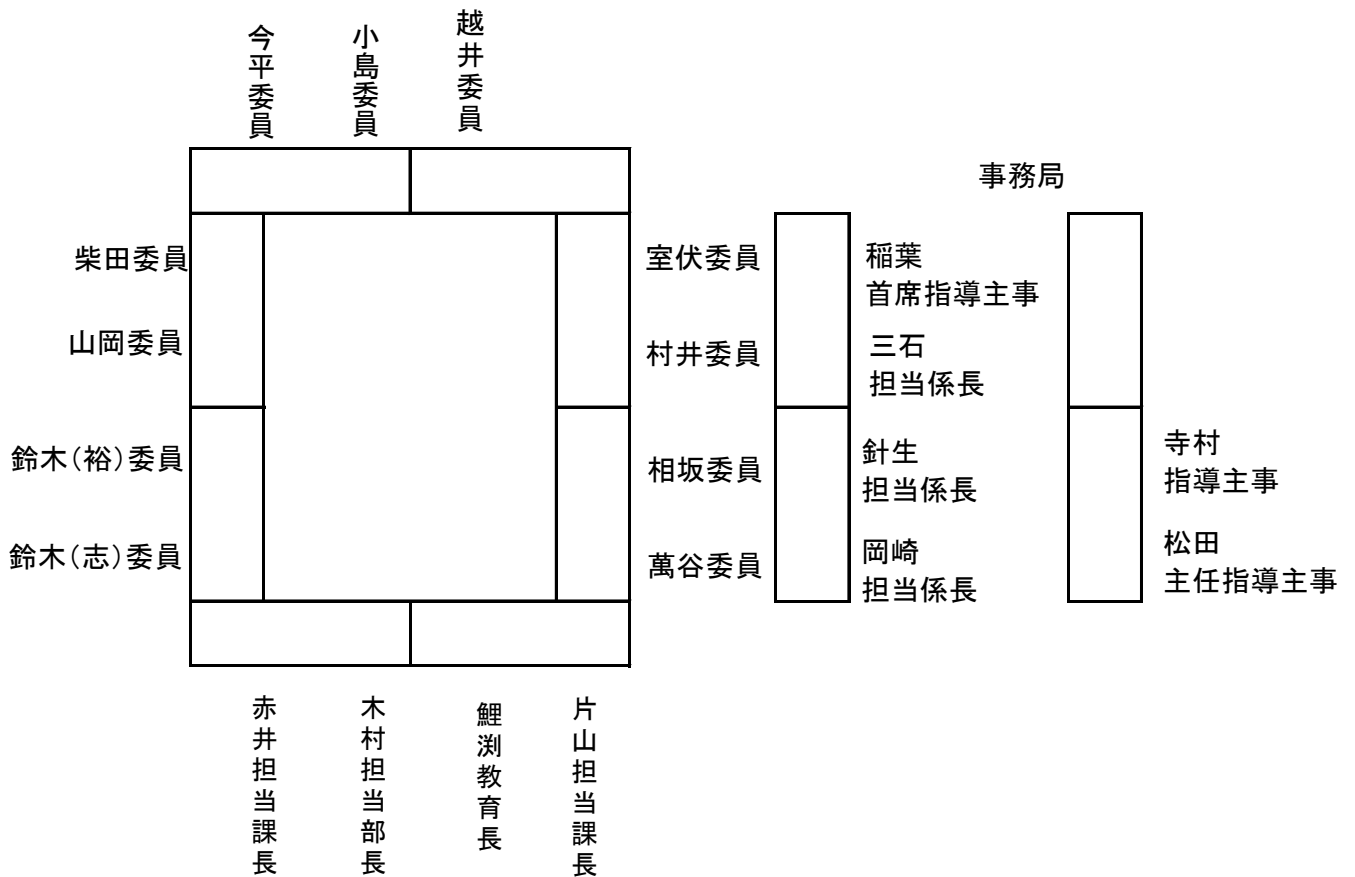
事務局：教育委員会事務局健康教育課 オブザーバ：教育委員会事務局及び市長部局関係各課

《情報公開について》

- ・会議は原則非公開で開催しますが、開催後に会議概要をホームページ等で公開します。

第4回 横浜市の中学校昼食に関する懇談会 座席表

令和元年12月27日(金) 10時～
教育委員会事務局会議室



入口

第 3 回 横浜市の中学校昼食に関する懇談会議事概要	
日時	令和元年 11 月 29 日（金）10：00～11：30
場所	関内駅前第一ビル 302 会議室（教育委員会事務局会議室）
出席者	鈴木志保子委員、鈴木裕子委員、山岡委員、柴田委員、今平委員、秋好委員、小島委員、越井委員、室伏委員、村井委員、相坂委員、萬谷委員
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつ 2 第 2 回懇談会の議事概要について 3 ハマ弁についての対話（サウンディング調査）の結果について 4 横浜市中学校昼食に関するアンケート調査分析結果について 5 その他
要旨	
<p>【2 第 2 回懇談会の議事概要について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より議事概要について説明 ・特に意見なし <p>【3 ハマ弁についての対話（サウンディング調査）の結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 3 - 1 に基づき事務局から資料説明 （主な発言要旨） ・サウンディング調査に参加した事業者のうち、その他 1 社とはどういう業者かという質問があり、小売りに関連する 1 社から話を伺った旨を説明。 <p>【4 横浜市中学校昼食に関するアンケート調査について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 4 - 1 に基づき事務局から資料説明 （主な発言要旨） ・回収率に関しては、保護者が 52%というのが高いと感じた。多くの保護者がこれだけハマ弁の喫食率が低い中で回答して下さったというのは、関心があるということだと思ふ。逆に、教職員の回答率は低く感じる。 ・選択制についての問いで、選択制について、大多数が「自由に選択できるのが良い」を希望している中で、「全員で同じものを食べる方が良い」・「ハマ弁だけで良い」を事実上同じものを食べるというくくりで考えると、中学校保護者では合わせて 4 割超になる。これをどう受け止めるかが一つのポイントになると思ふ。 ・自由に選択できるよりも、基本をハマ弁として、アレルギーなど事情がある場合は家庭弁当や業者弁当でも良いという方針の方が望ましいと思っている。小学校が給食なので、中学校に上がるときのハードルがかなり高いと思われるので、最初に、基本はハマ弁でアレルギー対応などの事情がある方は家庭弁当や業者弁当を持ってきてもらうようにアナウンスすると良いのではないかと。 ・中学校保護者のアンケート結果を見ると、弁当作りを負担に感じている方が 8 割を超えている。やはり、給食にしていただき、基本はハマ弁を食べてもらう形が良いかと思ふが、教職員のアレルギー対応などの負担も考えると、そういう方は個別に昼食を持ってきてもらうのが良いのではないかと。 ・横浜市の中でも、昼食に関する考え方は地域によって様々ある。ハマ弁がいいという地域もあれば、保護者がお弁当を作りたいという地域もある。 ・アンケート結果で 10%が「ハマ弁だけでよい」と回答しているが、実際の喫食率は上がっていない要因には、子どもの気持ちを尊重しているところと、保護者の方が注文することに抵抗感を感じているところがあるのだと思ふ。保護者の方がお弁当作りを負担に感じているという事は明確なので、 	

「みんなが家庭弁当なのに自分の子どもだけハマ弁」という気持ちを軽減することが大事。

- ハマ弁に対する先入観・イメージが元々あって、それが、利用が進まない結果に表れているのだと思う。例えば、お弁当を作れないときの代替案としてのハマ弁というイメージがあるので、ハマ弁がお弁当を作れない事の象徴になってしまっている。そのようなイメージがあると、生徒としても頼みづらいとか、自分だけ食べるのは嫌だという事につながるのだと思う。例えば、コンセプトとして基本ハマ弁で、家庭弁当も業者弁当も選択肢としてあるというスタイルだと、イメージは変わってくると思うが、生徒指導の経緯や供給体制が確保できない中で、ハマ弁の位置付けをどうするかが一番の問題点だと思う。
- ハマ弁のイメージをこれから変えていけるかどうか。元々家庭弁当が基本で、ハマ弁はその代替という位置づけでスタートしたが、これからのハマ弁の位置付けをどうするかによって、イメージもそれぞれ違ってくる。デリバリー型給食で基本ハマ弁ということになって、生徒の代表者がまとめてハマ弁を取りに行くような位置付けに変われば、ハマ弁に対する抵抗感は少なくなると思う。しかし、喫食率が上がりすぎると供給できないという課題もあるので、例えば、地域性を考慮して、ハマ弁を基本とする重点校を試行でつくり、その間に業者の供給体制も改善していく事で、徐々に重点校を増やしていくやり方もあるのではないかな。
- 昼食時間に関する回答は、もっと短いと感じている生徒が多いと思った。多分慣れてしまっているのだろう。学校の時程を考えると、5分でも延長してお弁当を取りに行く時間を確保することが改善策の一つになるのではないかな。
- ハマ弁を準備時間の5分間で取りに行くのが大変だという声はある。
- 受け取りに時間がかかるという事がクローズアップされているが、保護者の改善要望が40%に対して生徒は20%。そこの改善も必要だと思うが、どちらかというところ、味付けを改善していく事が生徒にとっては大事だと思う。
- 給食と比較しても、ハマ弁はしっかり味付けされていると思う。生徒は市販の弁当などと比較して味が濃い・薄いと評価しているのだと思う。このような懇談会を開催して、横浜市として真剣にハマ弁を推進しようと考えていることを、多くの方は知らないのだと思う。
- やはり、お弁当は健康的でバランスが取れていて、そして安全であることが一番だと思うので、ハマ弁の趣旨を聞いて共感した。食育を通じて保護者や地域を盛り上げていければ、ハマ弁の喫食率は更に上がっていくと思う。欠点を言うのではなく、良いところやより良くするための提案など、前向きな意見を交わすことで、横浜の子どもたちに、ハマ弁に誇りを持ってもらいたい。
- 保護者試食会をもっと開催し、ハマ弁は美味しいというイメージを作っていくのも重要。
- しっかりと栄養を取って基本的な生活習慣が整えば、心理的な面でも安定してくると言われているので、子どもたちにしっかりと食事をする時間を確保して、栄養のあるものをしっかりと食べてもらう事は、長期的に見れば生徒指導にもいい影響が出てくると思う。
- アンケートの改善要望については、保護者の方が心配していることが、アンケート結果の数値と重なっている印象はあるが、実際の保護者の声を聞いていると、ハマ弁そのものに対するマイナスイメージは感じられない。子どもたちが頼みやすい環境を整備してあげるところを担保していければ、保護者も子どもにどんどん勧めたいという意欲につながるのではないかな。
- 例えば、月1回・2週間に1回・毎週曜日など、学校ごとにハマ弁の日を決めるなど、必ず1か月に1回はハマ弁を食べる日があると良いのではないかな。

【5 その他】

- 次回の懇談会は日程調整をした上で行うことで了承。(12月27日10時からに決定)

横浜市の中学校昼食に関するアンケート自由意見欄の分析について

1 中学校生徒向けアンケート自由記入欄の分析

		n 3578	
		件数	割合
記入なし		1794	50.1%
記入あり		1784	49.9%
昼食時間が短い		391	10.9%
方式を問わず給食を希望		146	4.1%
小学校のような給食を希望		32	0.9%
センター、親子方式の給食を希望		5	0.1%
ハマ弁を肯定する意見（※1）		154	4.3%
ハマ弁の改善を求める意見（※2）		142	4.0%
現状を評価する意見（※3）		118	3.3%
家庭弁当を肯定する意見（※4）		73	2.0%
楽しい（※5）		38	1.1%
特になし		452	12.6%
その他		233	6.5%

2 中学生 保護者向けアンケート自由記入欄の分析

		n 2118	
		件数	割合
記入なし		992	46.8%
記入あり		1126	53.2%
昼食時間が短い		307	14.5%
方式を問わず給食を希望		282	13.3%
小学校のような給食を希望		190	9.0%
センター、親子方式の給食を希望		84	4.0%
ハマ弁を肯定する意見		189	8.9%
ハマ弁の改善を求める意見		143	6.8%

3 中学校教職員向けアンケート自由記入欄の分析

		n 447	
		件数	割合
記入なし		299	66.9%
記入あり		148	33.8%
昼食時間が短い		7	1.6%
方式を問わず給食を希望		22	4.9%
小学校のような給食を希望		1	0.2%
センター方式の給食を希望		2	0.4%
ハマ弁を肯定する意見		16	3.6%
ハマ弁の改善を求める意見		42	9.4%
家庭弁当を肯定する意見		13	2.9%
選択制を肯定する意見		9	2.0%
教職員の業務負担を懸念する意見		7	1.6%
特になし		10	2.2%
その他		19	4.3%

4 小学校6年生向けアンケート自由記入欄の分析

		n 432	
		件数	割合
記入なし		170	39.4%
記入あり		262	60.7%
給食を希望する意見		3	1.1%
ハマ弁を肯定する意見		47	17.9%
ハマ弁の改善を求める意見		111	42.4%
家庭弁当を肯定する意見		7	2.7%
特になし		51	19.5%
その他		43	16.4%

5 小学校6年生保護者向けアンケートの自由意見欄の分析

		n 280	
		件数	割合
記入なし		147	52.5%
記入あり		133	47.5%
昼食時間が短い		26	9.3%
方式を問わず給食を希望		14	5.0%
小学校のような給食を希望		31	11.1%
センター、親子方式の給食を希望		19	6.8%
ハマ弁を肯定する意見		17	6.1%
ハマ弁の改善を求める意見		15	5.4%
その他		11	3.9%

6 小学校教職員向けアンケートの自由意見欄の分析

		n 111	
		件数	割合
記入なし		66	59.5%
記入あり		45	40.5%
方式を問わず給食を希望		5	4.5%
小学校のような給食を希望		1	0.9%
センター、親子方式の給食を希望		1	0.9%
ハマ弁を肯定する意見		7	6.3%
ハマ弁の改善を求める意見		35	31.5%
家庭弁当を肯定する意見		1	0.9%

※ 記入内容の分類は、複数の項目に該当する場合、それぞれの項目にカウントしているため、合計件数が合わない場合があります。

※1 美味しい、いつも食べている、助かっている など

※2 美味しくしてほしい、おかずを温かくしてほしい、受け渡し方法の改善要望 など

※3 選択制のままで良い、昼食時間はちょうど良い など

※4 家庭弁当だけで良い、家庭弁当が一番おいしい、家庭弁当を持ってこれればよい など

※5 昼食時間が楽しい、皆で食べるのが楽しい など

令和 3 年度以降のハマ弁の方向性について（案）

横浜市の中学校昼食は、平成 26 年 11 月にまとめた「横浜らしい中学校昼食のあり方」に基づき、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」を提供するための最適な実施方法として、平成 28 年 7 月に横浜型配達弁当「ハマ弁」を導入し、29 年 1 月から市内全中学校で提供しています。

ハマ弁は本市と事業者で 5 年間の協定を締結し事業を実施していますが、令和 2 年度末で当初の協定期間が終了することから、令和 3 年度以降に向けて、外部の有識者等を含む「横浜市の中学校昼食に関する懇談会」を 3 回開催し、中学校昼食の現状やハマ弁のこれまでの取組状況、今後の改善等について各委員から次のようなご意見をいただきました。

また、この間、児童・生徒、保護者、教職員に対し中学校昼食に関するアンケート調査を実施した他、ハマ弁事業に関するご意見・ご提案や令和 3 年度以降の事業実施に係る提案等を伺うために事業者に対しサウンディング調査を実施しました。

懇談会でいただいた意見やこれらの調査結果等を参考に、「令和 3 年度以降のハマ弁の方向性」について考え方をまとめました。

【ハマ弁の今後の方向性（案）】

- ・ 食育の観点からハマ弁の利用を促進し、家庭弁当や業者弁当等も選べる選択制とする。
- ・ ハマ弁のさらなる改善を図り、できるだけ早期に学校給食法上の給食に位置付けることを目指す。

【方向性を検討する際のポイント】

- ① アンケート調査の結果から、現在の「選択制」を維持する回答が最も多かった こと。
- ② ハマ弁の内容について一定の評価を得ており、子どもの意見が無ければ、保護者はハマ弁を利用したいというニーズが高く、特にデリバリー型給食に対する期待が高いなど、周りが食べていない環境の改善が求められている こと。
- ③ 「栄養バランス」や「安全・安心」を求める声が多く、食育の観点からも行政としてバランスの良い昼食を選択肢の一つとして提供することが求められている こと。
- ④ 事業者へのサウンディング調査の結果から、現状で工場の供給体制に余裕のある事業者は少なく、一定量の供給体制を確保する場合には、工場の新設・改修工事など一定の条件整備や時間を要する こと。

【参考1】これまでの懇談会で各委員からいただいた主なご意見

(ハマ弁の現状について)

- ・ハマ弁については、様々な改善の取組がされており、保護者向けの様々なハードルはほぼ解決されているように感じる。そうなると喫食率が伸びるかどうかは、子どもたちにハマ弁に対するモチベーションがあるかどうかではないか。
- ・食べて 想定以上に美味しかった。栄養面・安全面に配慮しお弁当の中では良い形でつくれている。
- ・保護者を対象にしたセミナー・試食会で、実際に食べてもらった方にはハマ弁の魅力は伝わっている。一方で、「周りに注文している生徒がほとんどいないという話を聞くと、ハマ弁を注文しづらい」という声も多く聞こえてくる。

(ハマ弁の利用促進について)

- ・中学生は多感で周りの目を気にする時期で、心理的な影響が大きい。みんなが食べるのが当たり前となるような雰囲気づくりが重要。
- ・例えば、月1回・2週間に1回・毎週曜日など、学校ごとにハマ弁の日を決めるなど、必ず1か月に1回はハマ弁を食べる日があると良いのではないかと。
- ・ハマ弁の注文は1つのメールアドレスに対して1人の生徒となっているので、兄弟がいると、メールアドレスがもう1つ必要になる。1つのメールアドレスで複数の注文ができれば利用率はもう少し上がるのではないかと。
- ・保護者への周知では、食育セミナーの活用をより広げて、より多くの保護者が実際に食べられると良い。
- ・新入生保護者説明会で説明することは一定の効果はあると思うが、その時点ではハマ弁を利用するかどうか決めかねている家庭も多いので、入学してからも説明会があるともっと認知され、利用されるのではないかと。
- ・アンケート結果で10%が「ハマ弁だけでよい」と回答しているが、実際の喫食率は上がっていない要因には、子どもの気持ちを尊重しているところと、保護者の方が注文することに抵抗感を感じているところがあるのだと思う。保護者の方がお弁当作りを負担に感じているという事は明確なので、「みんなが家庭弁当なのに自分の子どもだけハマ弁」という気持ちを軽減することが大事。また、受け取りに時間がかかるという事がクローズアップされているが、保護者の改善要望が40%に対して生徒は20%。そこの改善も必要だと思うが、どちらかという、味付けを改善していく事が生徒にとっては大事だと思う。
- ・アンケートの改善要望については、保護者の方が心配していることが、アンケート結果の数値と重なっている印象はあるが、実際の保護者の声を聞いていると、ハマ弁そのものに対するマイナスイメージは感じられない。子どもたちが頼みやすい環境を整備してあげるところを担保していければ、保護者も子どもにどんどん勧めたいという意欲につながるのではないかと。

(食育について)

- ・美味しさを感じる要因は味だけではない。素材の説明や工場見学の機会など顔が見える関係が作れると良い。
- ・子どもたちは栄養学の知識などを持っていないので、大人がバランスの良いものを作って食べさせる必要がある。昼食1回をバランスの悪いものにしたら、自分が今やりたい勉強も運動にも影響があることを伝え、いくら嫌いなものでもある程度は食べなければいけないと教えるのが食育。
- ・給食と比較しても、ハマ弁はしっかり味付けされていると思う。生徒は市販の弁当などと比較して味が濃い・薄いと評価しているのだと思う。このような懇談会を開催して、横浜市として真剣にハマ弁を推進しようと考えていることを、多くの方は知らないのだと思う。
- ・やはり、お弁当は健康的でバランスが取れていて、そして安全であることが一番だと思うので、ハマ弁の趣旨を聞いて共感した。食育を通じて保護者や地域を盛り上げていければ、ハマ弁の喫食率は更に上がっていくと思う。欠点を言うのではなく、良いところやより良くするための提案など、前向きな意見を交わすことで、横浜の子どもたちに、ハマ弁に誇りを持ってもらいたい。

- ・現実的に今以上の時間をとることは難しいかもしれないが、食育の観点から、あと5分でも良いので昼食時間を延ばして、受け取り時間の確保や余裕をもって食べられる環境を作してほしい。
- ・しっかりと栄養を取って基本的な生活習慣が整えば、心理的な面でも安定してくると言われているので、子どもたちにとしっかりと食事をする時間を確保して、栄養のあるものをしっかりと食べてもらう事は、長期的に見れば生徒指導にもいい影響が出てくると思う。

(学校への影響について)

- ・今まで、中学校の昼食時間は、小学校の様な食育というよりも、いかに教室の中で食べてもらうか、仲良く食べてもらうか、生徒指導を注視しなければいけない状況だった。職員はある程度関心をもっているが、現場で忙しい中で、更に小学校の給食の様な配膳など、今までやってきていない業務を行う事になると、定着するのはなかなか難しいと思う。
- ・小学校で給食を提供する場合には、アレルギーへの対応など、安全な食事の提供に一番神経を使う。教職員はその対応について、毎年研修などを受ける。最近では、外国籍や外国につながる生徒の宗教食への対応も考える必要がある。中学校では生徒指導や進路指導もある中、小学校と同様の給食は難しいと感じる。
- ・ハマ弁を定着させていくために、新たな方向性を示す際には、学校に今後の対応などを含めて丁寧に説明してほしい。また、業者弁当を導入する際、学校側からお願いして業者に入ってもらっているという経緯があり、全校一律の方針ということになると、地域との関係が難しくなる学校も出てくる

(今後の方向性について)

- ・食物アレルギー対応や外国につながる生徒が増えているなど、子どもや家庭が多様化して、一律な提供が難しい状況の中で、選択制をより良く発展させようという考え方は賛同できる。
- ・横浜市の中でも、屋食に関する考え方は地域によって様々ある。ハマ弁がいいという地域もあれば、保護者がお弁当を作りたいという地域もある。
- ・選択制について、大多数が「自由に選択できるのが良い」を希望している中で、「全員で同じものを食べる方が良い」・「ハマ弁だけで良い」を 事実上同じものを食べるというくくりで考えると、中学校保護者では合わせて4割超になる。これをどう受け止めるかが一つのポイントになると思う。
- ・小学校が給食なので、中学校に上がるときのハードルがかなり高いと思われるので、最初に、基本はハマ弁でアレルギー対応などの事情がある方は家庭弁当や業者弁当を持ってきてもらうようにアナウンスすると良いのではないかと。
- ・中学校保護者のアンケート結果を見ると、弁当作りを負担に感じている方が8割を超えている。やはり、給食にさせていただき、基本はハマ弁を食べてもらう形が良いかと思うが、教職員のアレルギー対応などの負担も考えると、そういう方は個別に昼食を持ってきてもらうのが良いのではないかと。
- ・ハマ弁に対する先入観・イメージが元々あって、それが、利用が進まない結果に表れているのだと思う。例えば、お弁当を作れないときの代替案としてのハマ弁というイメージがあるので、ハマ弁がお弁当を作れない事の象徴になってしまっている。そのようなイメージがあると、生徒としても頼みづらいとか、自分だけ食べるのは嫌だという事につながるのだと思う。例えば、コンセプトとして基本ハマ弁で、家庭弁当も業者弁当も選択肢としてあるというスタイルだと、イメージは変わってくると思うが、生徒指導の経緯や供給体制が確保できない中で、ハマ弁の位置付けをどうするかが一番の問題点だと思う。
- ・ハマ弁のイメージをこれから変えていけるかどうか。元々家庭弁当が基本で、ハマ弁はその代替という位置付けでスタートしたが、これからのハマ弁の位置付けをどうするかによって、イメージもそれぞれ違ってくる。デリバリー型給食で基本ハマ弁ということになって、生徒の代表者がまとめてハマ弁を取りに行くような位置付けに変われば、ハマ弁に対する抵抗感は少なくなると思う。しかし、喫食率が上がりすぎると供給できないという課題もあるので、例えば、地域性を考慮して、ハマ弁を基本とする重点校を試行でつくり、その間に業者の供給体制も改善していく事で、徐々に重点校を増やしていくやり方もあるのではないかと。

【参考2】生徒・保護者等へのアンケート調査結果の概要

設問1：横浜市の中学校昼食の「選択制」について（複数回答）

- ・生徒・保護者・教職員すべての対象者で「自由に選択できるのが良い」と選択した人が最も多い。
（中学校生徒：77.6%、中学校保護者：51.7%、中学校教職員：80.8%、小学校教職員：80.2%）
- ・中学校保護者では、「全員が同じものを食べる方が良い」と選択した人が他の対象者と比較して多い。
（中学校生徒：6.3%、中学校保護者：33.2%、中学校教職員：10.1%、小学校教職員：13.5%）

設問2：昼食時間の感じ方について

- ・中学校生徒、教職員ともに、「ちょうど良い」が最も多いが、「短い」と感じている人が約4割いた。
- （中学校生徒：短い 42.7%・ちょうど良い 53.1%・長い 3.6%）

設問3：弁当作りをどのように感じているか（複数回答）

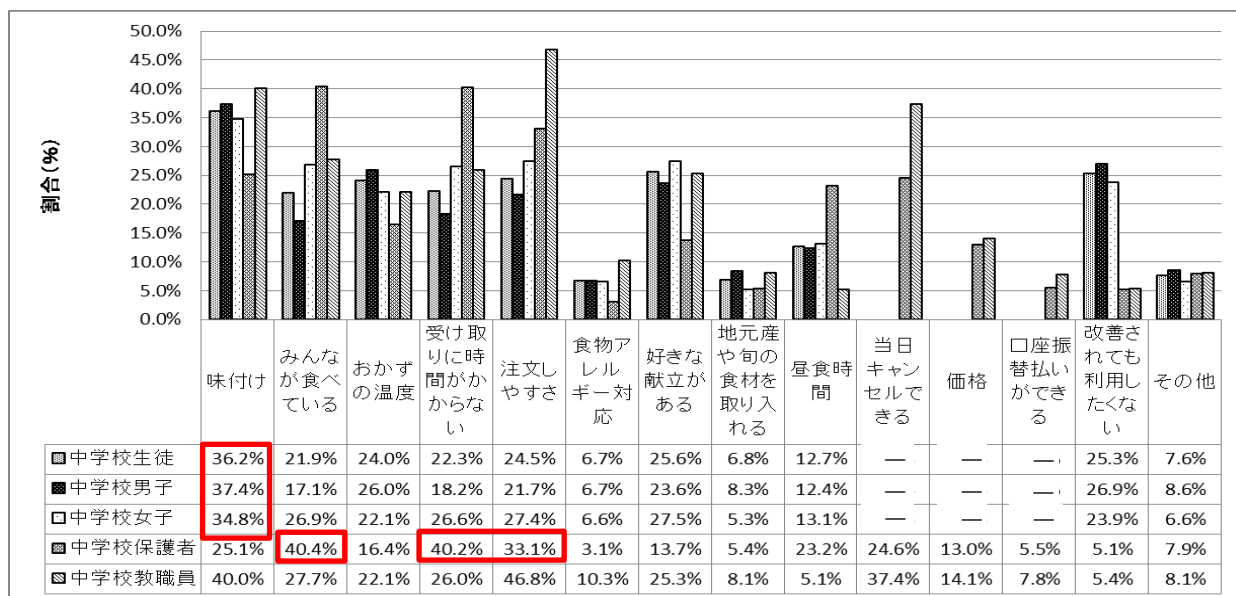
- ・中学校保護者では、約2割が「とても負担に感じている」、約7割が「お弁当作りを負担に感じているが、子どものために頑張っている」と回答した。弁当作りを「負担にあまり感じない」割合も1割以上となった。

設問4：ハマ弁の感想について

- ・「おかずの満足度」、「ハマ弁の満足度」では、すべての対象者で「普通」以上の評価の割合が6割以上

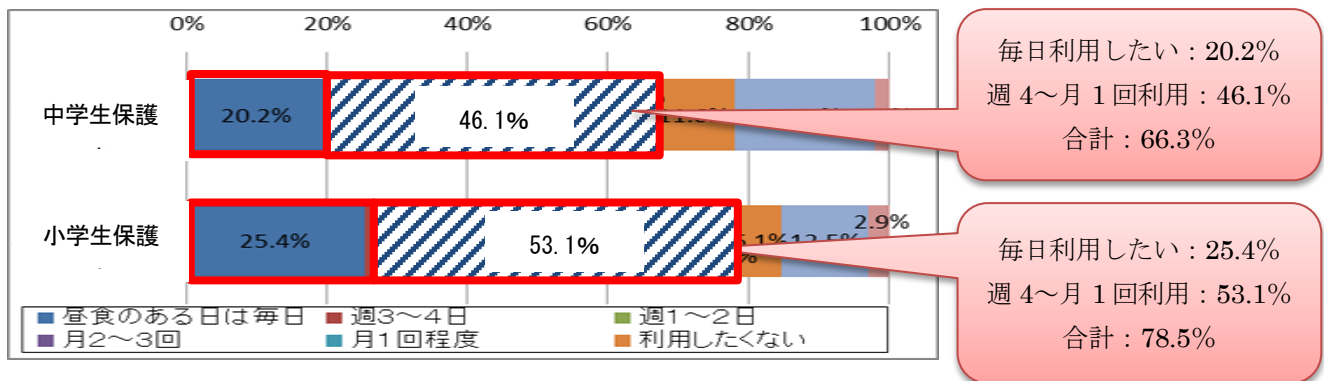
設問5：何を改善されれば、ハマ弁を利用したいと思うか（複数回答）

- ・中学校生徒では、「味付け」が最も高く（36.2%）、中学校保護者では、「みんなが食べている」（40.4%）、「受け取りに時間がかからない」（40.2%）、「注文しやすさ」（33.1%）が高くなっている。



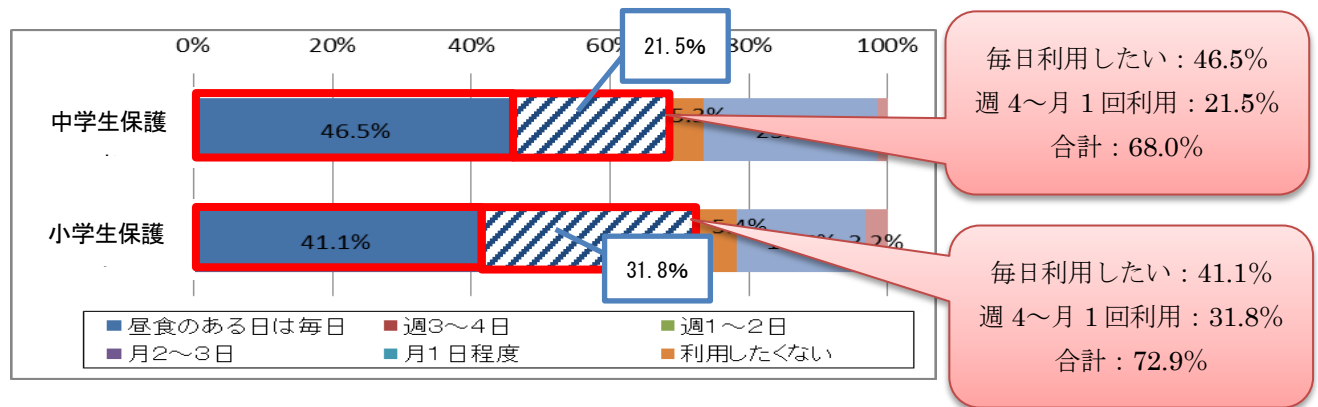
設問6：子どもがハマ弁でも家庭弁当でもどちらでもいいと言った場合のハマ弁希望利用頻度

- ・中学生保護者では約2割、小学生保護者では約2.5割がハマ弁を毎日利用したいと回答。
- 週4から月1回の利用を含めると、中学生保護者・小学生保護者ともに7割前後の方がハマ弁を利用したいと回答した。



設問7：仮にデリバリー型給食を実施した場合の利用希望頻度

- ・中学生保護者では約5割、小学生保護者では約4割がデリバリー型給食を毎日利用したいと回答。
- 週4から月1回の利用を含めると、中学生保護者・小学生保護者ともに約7割がデリバリー型給食を利用したいと回答した。



ハマ弁を学校給食法上の給食とする場合の課題

ハマ弁を給食化する場合に、以下の事項について検討が必要と考えています。なお、現時点では、本格的に検討している段階ではないため、あくまでも現時点での想定内容です。

番号	項目	現行 (ハマ弁)	給食化 (デリバリー給食)	課題
1	供給体制	喫食率20%を想定	給食化により、喫食率の増加が見込まれる	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のハマ弁は、想定喫食率20%までの事業スキームであり、現状では供給量が大幅に引き上がるような事業運営は困難です。 ・100%が提供できない場合でも学校給食法上の給食とすることは可能だが、希望するすべての生徒に提供できる供給体制を整える必要はあると考えます。(他都市では、家庭弁当との併用でデリバリー給食を実施しているところも多くあります。)
2	公会計化 (給食費)	利用料(私会計) 事業者が管理	給食費(公会計) ※教育委員会で管理	<ul style="list-style-type: none"> ・給食とすることにより、公会計化(給食費)となることに伴い、現行のLINEPayやポイント制度等が利用できるか、調整する必要があります。 ・給食費(保護者負担)として市が管理することとなり、新たな事務負担が生じます。
3	食材調達	事業者	教育委員会	現行、事業者が行っている食材調達について、給食とする場合には教育委員会で仕様を定める(食品選定のための委員会等)必要があります。
4	献立作成	事業者 (教育委員会が確認)	教育委員会	現行、事業者が作成し教育委員会で確認していますが、給食とすることに伴い、教育委員会が献立を作成することになります。
5	アレルギー対応	献立表にアレルギーの原因となる食品を表示	献立表にアレルギーの原因となる食品を表示 (一部食品への対応を検討)	給食とする場合、少なくとも特定原材料の除去食や代替食の提供、学校内でのアレルギー対応が求められますが、確実な実施は現状の製造体制では困難です。(デリバリー型給食を実施している他都市の多くは対応できておらず、実施する場合アレルギー対応が多く求められる一部の食品への対応を検討)
6	衛生管理 (配送にかかる時間等)	ハマ弁衛生管理基準 弁当惣菜等の衛生規範 大量調理施設衛生管理マニュアル	学校給食衛生管理基準	給食として実施するには、学校給食衛生管理基準に適合する必要があるため、調整が必要です。(調理後2時間以内の喫食に努める、適切な温度管理など)
7	学校への影響	学校の負担ができるだけ生じない仕組み	学校の負担ができるだけ生じない仕組み	弁当容器に盛り付けられたデリバリー型であれば、学校給食法上の給食に位置付けられたとしても、学校での配膳時間は変わりません。学校の負担ができるだけ生じない仕組みを検討します。
8	事業運営	事業者が主体	教育委員会が主体	給食費の管理、食材調達、献立作成、アレルギー対応、衛生管理など、現在事業者が担っている業務の多くを教育委員会が実施することになるため、教育委員会内の体制強化が必要となります。